

會 報

第608号

2019年5月1日発行

一般社団法人

監 査 懇 話 会

編集発行人 菅野 重雄

<https://kansakonwakai.com>

第317回監査セミナー

2019年3月22日

演 題：平成の時代を振り返る（会計・監査の変遷と課題）

講 師：EY新日本有限責任監査法人 シニアパートナー 公認会計士 中島 康晴氏

はじめに

まもなく平成が終わります。プロ野球の世界で平成の一時代を築いたイチローの引退のニュースもありました。まさに区切りの年です。この30年間を振り返ってみて、いつどのような出来事が起き、またどのような制度が手当てされてきたのか、現在はどうなっているかということをご観していきます。皆さんの監査役としての今後の活動や後進の指導等に役立てていただければ幸いです。また皆様がビジネスパーソンとして平成時代の苦難等々を振り返る機会になれば、との思いで話をさせていただきます。

1. 平成時代の会計の変遷

1989年、日経平均株価が史上最高値38,915円をつけたあと、そこから株価は下げ続けました。2002年に8,406円、2008年にはリーマンショックがあり、バブル後最安値の7,162円を記録、2011年東日本大震災後に8,455円を記録し円・ドルレートは77円と超円高になりました。その後、2012年に第2次安倍政権が発足してアベノミクスを推進、株価が上昇し、2018年の終値は20,014円となっています。

この間に会計制度が激変、まさにビッグウェーブに呑み込まれた感があります。

2000年～2003年 会計ビッグバン

2002年 監査基準の改訂

2005年 企業結合会計の導入

2006年 会社法施行

2007年 東京合意

(IFRSとのコンバージェンス)

2008年 J-SOXの襲来

2013年 IFRSの任意適用

◎いくつかの会計制度成立の経緯を歴史的に見てみましょう

①税効果会計

1999年2月5日には、「日本経済新聞」に初めて税効果会計の記事が掲載されました。それは「最終赤字

縮小/日立、今期1900億円/新日鉄はトントン/税効果会計を前倒し導入」という見出しのものです。

2002年10月23日の日経新聞には、『「税効果会計」来期から厳格化/不良債権処理促進策/自民反発、発表見送り/株価への影響懸念』という見出しが紙面で躍っています。翌年から税効果会計が適用されることになっていたのですが、1年前倒しでの導入が認められたことと、その影響がテーマとなっていた記事です。実は自己資本が枯渇していた金融機関を救うために、政策的に導入されたのが税効果会計であったのです。こうした経緯から、税効果会計の導入時に、この会計基準を導入すれば利益を計上できるという誤った認識が広まってしまい、これでは不良債権処理の推進策にならないことから、税効果を厳格化すると竹中大臣が発表し、自民党幹部がこれに反発したという記事です。これは当初、基準が緩かったというわけではなく、運用が緩かったことを意味します。いずれにしても、「法人税等調整額」、「過年度税効果調整額」、「繰延税金資産」といった勘定科目が税効果会計導入により計上されることになったわけです。

②企業結合会計

次に企業再編会計の変遷について見ておくことにします。会計ビッグバン以前の合併会計はかなり恣意的に行なわれていたきらいがありましたが、会計ビッグバンで企業結合会計が登場し整理されました。日経新聞では2002年1月22日と24日に「合併会計の虚実」という連載が行なわれ、そこでは「含み損消す評価法/あいまい規定、市場惑わす」、「連結中心の基準へ/「買収」と同一扱いに」といったように、企業結合会計によって会計処理の恣意性が排除されたことが論じられています。

③内部統制

2006年1月17日の「日経金融新聞」には、「企業の管理体制 透明に/『内部統制監査』2008年3月期めざす/証取法改正案 金融庁、国会提出へ」という記事が掲載されています。内部統制監査が、アメリカ同様に日本にも導入されることとなるという記事で



す。こうして、いわゆるJ-SOXの導入に向けて、監査法人や上場企業各社が浮足立ったことは、今思い起しても異常なものがありました。2009年6月9日の「朝日新聞」には「内部統制 トップに責任/義務化 初の報告/会計不正 責任明確に」という記事が掲載されていますが、これは内部統制が義務化された2009年3月期決算を受けた「内部統制元年」を報じたものです。それから10年近い時間が経過しましたが、現状でも残念なことは、数字の訂正が生じたときに、後追的に「内部統制も悪かった」と翻って表明し直すような形式的制度になってしまっている点です。

④ I F R S

内部統制に続いて大きな問題となったのは、I F R Sの採用に関する動向です。いうまでもなくI F R SはE Uで始まり、それに米国、日本の動きが加わったものですが、一時は採用に向けたスタンスを示した米国は途中で関心を示さなくなり、従来通り米国基準が保持されるに至りました。当初は米国までI F R Sを採用すれば日本は孤立するとして、いわば脅迫観念のもとで突っ走ってしまった日本は、米国の消極化に目もくれずにそのまま推し進めていきそうであったのですが、2011年6月、当時の自見金融大臣がI F R S強制適用、単体も、という流れにストップをかけ、任意適用に落ち着きました。また、大局的にはコンバージェンス作業により米国基準とI F R S、日本基準はほぼ同じものになったとされています。I F R Sは会社の業績を正しく示そうとしている会計ではなくて、会社が今売られるとしたらいくら価値になるというデューデリ会計であるということを常に頭に置いておくことが必要かと思います。

⑤ 会計不正問題

- ・大和銀行事件→内部統制制度
- ・山一証券事件→会計ビッグバン
- ・足利銀行事件→監査の品質管理基準

- ・カネボウ事件→監査法人の品質管理体制の見直し
- ・エンロン、ワールドコム事件→サーベンス・オクスリー（SOX）法
- ・西武鉄道事件→内部統制報告制度
- ・ニイウスコー事件→循環取引等不適切な会計処理への監査における注意喚起

このように、過去に生じた会計不正問題を契機として、制度は大きく変わりました。

◎ 会計不正の事件に絡んで皆様には是非とも頭に入れておいていただきたいことがあります

毎回申し上げていることではありますが、経済学の祖とされるアダム・スミスは、その主著『国富論』で、自由経済を追求すれば競争が促進され、その競争の中で「見えざる手」（Invisible Hand）の力によって経済発展が進み、豊かで強い国（社会）を作ることができるかと主張しています。その一方で、『道徳感情論』（最晩年まで改訂作業を進めていたこちらの方が主著かもしれません）では、社会に秩序を成り立たせるための道徳観、倫理観、人間観が展開されています。また、京セラの創業者の稲盛和夫氏は、「そもそも資本主義社会は、利益を得るためなら何をしてもいいという社会ではない。参加者全員が社会的正義を必ず守るという前提に築かれた社会なのであり、厳しいモラルがあってこそ初めて正常に機能するシステムなのである。」と述べています。アダム・スミスも稲盛氏も自由経済といってもそこには倫理観が必要であることを強調しているのです。

朝日新聞の論説主幹を務めたジャーナリストの松山幸雄氏は「自由は活力を生むが、ややもすると『節度を失う（いい気に成り過ぎる）』欠点を持っているのではないか、というのがいつも気になってきました。」と述べ、組織のリーダー（経済界のエリート）たるものに必要な資質として次の6つを挙げています。①謙虚さ、②人間性、③柔軟性、④批判精神、⑤広い視野、そして⑥として道徳的倫理的問題の理解です。

2. 今後の制度対応

昔を振り返ってばかりもいられません。時代は止まることなく進みます。今後の展望をしてみましょう。まずは、今現在のディスクロージャー・企業会計等をめぐる動向としては、コーポレートガバナンス改革に注目する必要があります。

2015年6月からコーポレートガバナンス・コードの適用が開始されました。昨年6月にはその改訂版への対応が始まり、皆さんの会社でも12月末までにコーポレートガバナンスの報告書を東証に提出されたことと思います。

◎ 開示制度に関しては、2017年11月にディスクロージャーワーキング・グループが設置され、2018年6月には報告書において以下の提言がなされ、今後適用されていきます

- ①「財務情報」と「記述情報」の充実…2020年3月期から適用
- ・経営方針・戦略における競争優位性に関する経営者の認識
 - ・事業等のリスクについて、顕在化する可能性の程度や時期、影響並びに対応策
 - ・会計上の見積りや見積りに用いた仮定について、不確実性の内容やその変動による経営成績への影響に関する認識
- ②建設的な対話の促進に向けたガバナンス情報の提供…2019年3月期から適用
- ・役員報酬について報酬プログラムの説明と報酬実績の記載
 - ・政策保有株式について、保有の合理性の検証方法の開示を行い、個別開示の銘柄数60へ拡大
- ③情報の信頼性・適時性の確保に向けた取組み…2020年3月期から適用
- ・監査役会等の活動状況をもっとくわしく開示。また監査法人の継続監査期間を開示

◎会計監査関係に関しては、以下の論点に留意してください

- ①2017年3月：「監査法人のガバナンス・コード」策定・実施
- ②監査基準の改訂・監査報告書の透明化「監査上の主

要な検討事項（KAM）の導入」…2021年3月期から適用

- ・監査報告書が長文化される（今期はどういうところに注目し、どういうところが一番の監査課題ととらえ、どういうことを実施したかを記載することになる）
- ③2018年11月：「会計監査についての情報提供の充実に関する懇談会」を設け、監査人の説明責任について議論公表（2019年1月22日）
- ・監査報告書以外に監査人からの追加的な説明を受ける機会がない点が課題
 - ・監査意見の差し控えや限定意見がなされたときなど説明不足ではないのか、また、監査法人が交代したときの説明も不十分ではないのか。

◎会計基準に関しては、以下の論点が注目されます

- ①IFRSの任意適用企業の拡大促進：現在約200社
- ②IFRSに対する日本の立場：2018年7月のIASBにおいて「のれんの会計処理の簡素化のための選択肢として定期償却の再導入」の是非を検討することが決定
- ③収益認識基準の策定・公表（日本基準の高品質化）：2022年3月期から適用。これについては、ジャフコ、日本オラクルの2社が早期適用しています。

以上、平成を振り返り、新たな時代を展望いたしました。（文責 田中 彰）

第757回講演会

2019年3月12日

演 題：エジプトの世界遺産と壁画にみる古代エジプトの信仰
講 師：エジプト壁画研究家 村治 笙子氏

はじめに

梅の花も散りはじめ、桜の季節となりました。皆様
が沙漠で暑いと想像されるエジプト、実は案外寒くて、
この1月に一周してきましたが、カイロでも4度と寒い
日が続いており、一方3月ごろから始まるハムシー
ンと呼ばれる砂嵐が吹きあれました。今日はそんな国、
エジプトの古代のお話をさせていただきます。

古代といっても、ナルメル王が全土を統一した紀元
前3000年から、クレオパトラ7世がローマに敗れた
紀元前30年頃まで、大変に長い歴史があります。

1. 壁画に見る王の姿

壁画によく見られる場面ですが、古代エジプトの王
様（新王国時代まではまだファラオという呼び名はあ
りませんでした。新王時代に使われたパロという言葉

がファラオになりました）が、王位を更新する「セド祭」
の儀式をしている場面をヒエログリフという象形文字
と共に描いたものがよく見られます。エジプトの王は、
いろいろな衣装をつけた姿で壁画に描かれ、国の繁栄
と安寧を神々に祈願する役目をもっていました。王だ
けが、神々と交流できると考えられていました。そし



で死後も現世の王とともにその役目をもちつづけていました。神々に供物を捧げ祈願する王の姿が神殿の壁画にたくさん見られます。

最古のピラミッド内部ではヒエログリフが中心ですが、その後はヒエログリフとともに様々な壁画が現れるようになります。壁画の人物の顔は横顔ですが、目は正面から見た形で、首から下の上半身は正面を向いていて、四肢はひねっているという独特の描き方になっています。これはそれぞれの理想的な形を描いたものと考えられています。19世紀、シャンポリオンがロゼッタストーンを解読したことから、読めるようになったヒエログリフは、アラビア文字と同様に母音がありませんが、王の名前など壁画の内容がよくわかります。

2. 沙漠に囲まれた島国の世界自然遺産

エジプト文明はナイル川に沿って開けました。川から離れると無人の沙漠地帯が広がります。沙漠地帯にも私は12日間ほど旅行したことがあります。鯨の骨やアンモナイトの化石が見つかった「ワディ・アル・ヒタン」（クジラの谷）は2005年に世界自然遺産に登録されました。エジプトは沙漠に囲まれた島国と見ることができます。

3. 上エジプトと下エジプト、および世界遺産

ナイル川は、源流とみなされている現在のナセル湖から北へ流れています。上空からの図を見るとロータス（熱帯睡蓮）が開いたように、また上部が三角になったバピルスのようにも見えます。上流をロータスをシンボルとする上エジプト、下流域のデルタ地帯までをバピルスをシンボルとする下エジプトとして、合計42の州に分かれ、それぞれの地域に守護神がいて、配偶者と息子の神と共に祀られました。その地域から国を統一する者としてのエジプト王が出れば、当然その地域の神が国家神となりました。ヘリオポリスのラー神、テーベのアメン神、メンフィスのプタハ神などです。現世の神として、国家の祭礼が大々的におこなわれ、地方でも、その地域の神々と共に祀られました。カルナク神殿などのアメン大神殿域が有名です。プタハ神殿域はあまり残っていません。

上エジプトでは、アスワンハイダムによってできたナセル湖に沈むところを、大変な努力で移設復旧した「**アブ・シンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群**」が1979年に世界遺産になっています。救出された神殿の一部は設備の整った他国へも搬出され、たとえばニューヨークのメトロポリタン美術館にも収蔵展示されています。また、旧首都として栄えた「**古代都市テーベとその墓地遺跡**」（王家の谷、カルナク神殿、ルクソール神殿など）が1979年に世界遺産になっています。

下エジプトではカイロの少し南にある3大ピラミッドやスフィンクスのある「**メンフィスとその墓地遺跡—ギザからダハシュールまでのピラミッド地帯**」(1979

年指定)、そして「**カイロ歴史地区**」(同)、アレクサンドリア近郊で、ナイルの泥が流れ込む地域での困難な中から発掘された「**アブ・メナ**」(同)、モーゼの十戒で有名なシナイ半島にある「**聖カトリナ修道院地域**」(2002年指定)が世界遺産になっています。

アスワンハイダムができるまでは、ナイル川の流れのサイクルと農業暦サイクルが一致していましたが、ダムで水量の調整が行われるようになったことのプラス面もあり、マイナス面もあります。

エジプトでは新しく「エジプト大博物館」の建設を進めていますが、予定よりかなり遅れています。「修復保存センター」では日本のJICAチームが重要な役割を果たしています。

4. 死後の世界

死後も王は現世に影響を与えると考えられたために、神々から迎えられるための儀式が行われ、葬祭殿や王墓などにその姿が描かれました。ハトシェプスト葬祭殿やラメセス2世葬祭殿やセティ1世葬祭殿が有名です。初期の頃には、来世に無事に復活できるのは、ピラミッド内部に描かれた「ピラミッド・テキスト」にみられるように、神々たちの仲間入りをする王だけでした。

やがて、時代は下って、国民たち一般人も、冥界の王オシリス神の裁判（死者の裁判）をうけて「声正しい者」と認められれば、来世に復活して神々や王とともに現世とおなじような暮らしができると考えられるようになりました。そんな来世のために必要なものとして墓におさめられたのが、現在われわれが展覧会や博物館でみられるミイラや棺、副葬品の数々です。こうしたものは、国内で開催される展覧会で観ることができますが、墓や神殿の壁画は、現地エジプトでしか見ることができません。

五千年の歴史をもつエジプトの王朝時代は、日本と同じ八百万の神々の国でした。太陽神や冥界の神などを祀って祭礼の時には神輿も出る日本と似ている部分も多くあります。

5. キリスト教とイスラム教

古代ローマ時代にキリスト教が入ってきて「一神教」の国になり、土着キリスト教のコプト教の信者も残っていますが、いまでは圧倒的に多くの人と同じ一神教のイスラム教を信仰しています。でも心情的には古代部分が続いているようです。使われている言語は、古代エジプト語（ヒエログリフ、ヒエラティック、デモティック）からグレコ・ローマン時代にはコプト語を経て、ギリシア語が公用語となりました。そして、現在はイスラム教の聖典である『クルアーン（コーラン）』の言葉であるアラビア語が公用語になっています。けれども、現地の話言葉は独特の方言（アンミーヤ）であるために、なかなか通じにくいです。

6. 美しいネフェルタリの墓

エジプトの美女とされているのはクレオパトラ7世ですが、紀元前14世紀の王妃ネフェルティティの美しい頭部像も有名です。もう一つご紹介したいのはルクソールの王妃の谷にあるラメセス2世の王妃ネフェルタリの墓の美しい壁画です。

おわりに

その生命力あふれるエジプトを護っているのが、今も国内をただ一つだけ流れる大河ナイルです。

以前は多かった日本からの観光客も最近はほとんど姿を見なくなり、さびしい感じでしたが、今は次第に戻りつつあります。宿泊施設や交通手段も整備されているエジプトは、高齢者の旅行にも適した国であり、ぜひお出かけになるようお勧めいたします。

(文責 城戸崎 雅崇)

第535回研修見学会

2019年3月26日

埼玉県環境整備センターと同県立 川の博物館

3月26日(火)、埼玉県環境整備センターの見学開始時刻の関係で、いつもより早めの朝7時15分集合(7時30分出発)でした。それもあったのか参加者は少し寂しい22人(当日2人キャンセル)で出発しました。

行程は順調に進み、予定通り9時30分、同センターに到着。同センターは処分先に困っている県内の市町村や中小企業などの廃棄物を適正に処分するため開発された、県直営の広域埋立最終処分場です。県内各自治体の焼却場で粉碎された焼却灰や、中小企業から出された産業廃棄物を埋め立てる大規模な施設で、年間約3万3千トンを受け入れ埋め立てています。係の方の説明では、計画当初(1980年頃)は地元からの強い反対があり機動隊まで出動した経緯もあり、地元(寄居町・小川町)と結ばれた公害防止協定には、埋立期間、公害防止(基準値、各種測定)、埋立地の維持管理、廃棄物の搬入方法等地元の意見を反映した厳しい基準が設けられ、埋め立てにあたっては遮水(2重)シートを用い、廃棄物の上に土を盛るサンドイッチ工法を採用しています。地元民による週1回の監視活動も定例的に行われ、今では地元の理解や協力を得られているとのことでした。

廃棄物リサイクル技術の進化や環境に対する企業や市民の意識向上等により、廃棄物の搬入量は年々減少しており、現在埋立率は60%。当初計画していた最終埋立期間(2032年3月31日まで)は延長され、2050年頃までは運用されるのではないかとのことでした。

見学した埋立地現場では、廃棄物搬入のトラックが普段より多く、荷下ろし(異物混入チェック)作業のほか、広大な敷地に配置されている計量、車体洗浄等の各作業及び検査工程を実際に見ることができました。

また、同センター内には取扱資源や機能の異なる7社の民間リサイクル工場があり、そのうちの蛍光管リサイクルを専門に扱う(株)ウム・ヴェルト・ジャパンを訪問しました。蛍光管から水銀を取り出し、異物を含まないガラスカレットを取り出す工程の作業を見学しました。昨年10月より蛍光灯の処理基準が厳しく改正され、需要が高まっているとのことでした。LEDとの違いなども説明され、自社でガラスカレットから再生・製作したガラス製品も見ることができました。因みに社名から外資系企業と思われがちですが、リサイクル先進国ドイツに倣って「環境」のドイツ語「ウム・ヴェルト」からとった社名で、純粋な日本の会社だそうです。

廃棄物処理は重要な社会問題ですが、実際にこうした施設を見学する機会がなく、一市民として大変勉強になりました。また安全安心に対する視点や運営の透明度に重点に置いていることは、会員企業においても経営やESGへの取り組み等の参考になったのではないかと思います。

見学後、寄居駅周辺へ。昼食は昭和2年創業の老舗料理店「喜楽」で「お福ひな膳」を味わいました。「鉢形城(北条氏)のお姫様、お福御前の名前をいただいた」というだけに一品一品手作りの上品な料理の昼食は、開業当時の庭や和建築と相まって優雅なひと時となりました。サービスも行き届いておりプライベートで利用したいとの声も複数頂戴しました。

午後からは埼玉県立 川の博物館へ。「埼玉の母なる川―荒川を中心とする河川や水と人々のくらしとのかわり」について様々な体験学習を通して理解を得ることや、環境保護の観点から河川の浄化や水の循環を身近な問題として捉えてもらうことを狙いとした、いわばテーマパークのような施設です。江戸時代の伊奈一族の治水の歴史から庶民の生活、文化、観光、生息

する魚類、動植物まで多彩な展示や体験を楽しめました。屋外では広々とした敷地に水車小屋や、荒川源流から東京湾までを1/1000の縮尺で再現した日本一の屋外地形模型などがあり、午後からの暖かい日差しに恵まれゆっくり過ごし、予定の見学を終えました。帰りの行程も滞りなく、午後5時過ぎ無事東京駅に到着、

解散しました。

いつもに比べ少人数の開催になってしまいましたが、身近な環境問題や荒川の奥深さを改めて知ることができ、有意義な研修見学会になったと思います。ご参加、ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。

(山田 貞一)



楽友会

三井記念病院ボランティアコンサート



3月16日(土) 13:00～14:00に三井記念病院においてボランティアコンサートを開催しました。今年で3回目となりました。会場は満員御礼とはなりませんでした。8割程度の入りで、監査懇話会からの熱心な応援のほか、メンバーの知人、点滴を下げた入院患者さんなどが、熱心に温かく聴いてくださいました。午前中、いつも練習会場としている近くの東京カトリック浅草教会で10時からのリハーサルで調子を整え、本番に備えました。

24人のメンバーのうち、80歳以上が9人の合唱団ですが、会友の平眞彌さんの指揮、ひときわ若くチャーミングな安齋麗奈さんのピアノで元気に13曲歌いました。今年は安齋さんのピアノソロも3曲あり、バラエティに富んだコンサートでした。打ち上げでの自己評価は「練習以上のできばえで歌えた」、そしてみなさまからの感想も上々(これはお世辞のようでしたが)でした。

(楽友会委員長 川村 知重)

生涯学習部会コーナー



句遊会

三月詠草

兼題…鶯、朧月、当季雑詠

初音聞きわが全身は耳と目に

中山 知祐

空き家にも巡る季節の初音かな

大仲 正敏

鶯の一声公園一人占め

森 邦彦

ペダル漕ぐ初音を追うてなほも漕ぐ

安井 正浩

おぼろ月ライトアップに浮かぶ寺

川田 勝美

老いらくの恋路を照らす朧月

清家 静楓

月おぼろ月からかしら電話なる

佐藤 政百

月おぼろ露座の大仏眠りをり

生江沢五風

港町汽笛の橋に朧月

小野 信

釣り糸を波にまかせて春の磯

石原 克己

澱むとも流るともなき春の川

城戸崎雅崇

AIも職人技に咲いた花

眞田 宗興

画友会



「サンマルタンの港」
関原 泰生



2003年から画友会の講師をお願いしてきた関原泰生先生は2017年5月に急逝されましたが、今年4月の「写実画壇展」(上野の森美術館)に先生のご遺作が展示され、妹の亜子さんからご招待をいただき、皆で鑑賞しました。先生は1948年東京生まれで、1969～73年にフランスでご勉強、東武カルチャーなどの講師や毎年の個展、写実画壇展で活躍されました。

写真はご遺作と2017年1月例会の集合写真(前列左から2番目が先生)、2009年7月例会でのスナップです。

事務局通信



◆行事報告

第162回理事会

3月14日(木)10:00~12:00 文京区民センター 15

会報委員会

編集 3月5日(火)10:00~12:00 事務局 7

校正 3月20日(水)10:00~12:00 事務局 7

広報委員会

3月6日(水)14:00~17:00 事務局 6

◇一般部会

第550回研修見学会

3月26日(火)7:30~17:00 埼玉県環境整備センター、22
埼玉県立 川の博物館

第757回講演会

3月12日(火)14:00~16:00 日比谷図書文化館 79
(他定期:1名)

講師 エジプト壁画研究家 村治笙子氏
演題 エジプトの世界遺産と壁画にみる古代エジプトの信仰

◇監査部会

第317回監査セミナー

3月22日(金)14:30~17:00 スカイホール 74
(他定期:1名、個別1名、体験:3名)

講師 EY新日本有限責任監査法人シニアパートナー
公認会計士 中島康晴氏
演題 平成の時代を振り返る(会計・監査の変遷と課題)

第9回監査基礎講座

3月20日(水)14:00~17:00 文京区民センター 25

講師 元農中信託銀行(株)監査役 鈴木充郎氏
テーマ 株主総会における監査役の役割

第7回会計基礎講座

3月8日(金)14:00~17:00 文京区民センター 28

講師 (株)システムインテグレート監査役 眞田宗興氏
テーマ 粉飾決算の手口あれこれ

第225回監査実務研究会

3月28日(木)14:00~17:00 文京シビックセンター 31

問題提起者 元(株)トライアイズ常勤監査役 古川孝宏氏
コーディネータ 元トーセイ(株)常勤監査役 本田安弘氏
テーマ トライアイズ事件再論

第76回スタディグループ分科会

3月14日(木)14:30~17:00 文京区民センター 34

発表者

コーディネータ ペンてる(株)常勤監査役 大竹盛義氏
リーダー ユーピーアール(株)常勤監査役 斎藤安弘氏
(株)プレンティアー常勤監査役 後藤弘之氏
(株)LisB監査役 五艘洋司氏
テーマ 非上場及びオーナー系会社の監査役等の実務課題と取組み

第77回監査技術ゼミ

3月27日(水)14:00~17:00 文京シビックセンター 37

講師 (株)バリュークリエイト代表取締役 三冨正博氏
テーマ 「見えない資産」のリスク管理と評価
~監査役等の妥当性監査における観点~

取締役職務執行確認書委員会

3月20日(水)16:30~17:30 昭和リース(株)会議室 6

◇生涯学習部会

写友会 例会

3月15日(金)13:30~17:00 文京区民センター 17

画友会 例会

3月11日(月)13:00~17:00 文京シビックセンター 10

句遊会 例会

3月6日(水)14:00~16:00 菱友会会議室 8

楽友会 例会

3月14日(木)13:00~17:00 福祉センター江戸川橋 21

3月16日(土)13:00~14:00 三井記念病院 22

3月28日(木)13:00~17:00 福祉センター江戸川橋 19

棋友会 例会

3月26日(火)13:00~17:00 東京六甲クラブ 10

◇同好会

声友会

3月12日(火)13:00~16:00 (銀座)505 12

エッセイクラブ

3月19日(火)13:45~16:30 菱友会会議室 8

楽器演奏同好会

3月23日(土)14:00~17:00 横浜練習会場 10

ウォーキング同好会

3月30日(土)9:30~13:00 玉川上水 16

江戸文化研究会

3月23日(土)13:30~16:30 深川、清澄庭園 24

◆会員・会友異動

(会員から会友へ)

○西中間裕 元トーセイ(株)

(退会会友)

○六川二郎 元(株)東急イン

※2/22(金)ご逝去されました ご冥福をお祈りします

会 員	会 友	計
191	143	334

2019.3月末現在

編集後記

☆平成の30年が幕を下ろしました。熊本地震、東日本大震災などの天災に見舞われましたが、対外的には我が国は平和を維持しました。☆監査セミナーでは、会計・監査の視点から公認会計士の中島康晴さんが平成時代の変遷を振り返りました。令和の時代の課題までお話いただき、とても勉強になりました。☆研修見学会では埼玉県環境整備センターで同県内のゴミの最終処分状況を見ました。この施設は平成のまさに元年(1989年)に出来ましたが、環境に対する企業や市民の意識の向上やリサイクル技術の進展で持ち込まれるごみや産業廃棄物は年々減少。最終埋め立て期間は当初計画より18年間(2050年ごろ)近く伸びる見通しだそうです。平成時代の良かった点の一つに数えられることでしょうか。☆講演会はエジプトの遺跡群を中心に同地を何十回となく訪ね、古代エジプトの歴史に詳しい村治笙子先生のお話でした。平成時代に相次いだテロ事件で日本や世界各地からの観光客が激減した同地も治安が安定し、やっと客足が戻ってきつつあるそうです。「ホテルや交通手段が充実しており、高齢者の旅行に適しているのも、是非」と勧めていました。(川田 勝美)